令和７年度第１回みまきっこまんなか応援まちづくり推進検討委員会　会議録（要旨）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和７年４月23日（水）　午後18時30分～ |
| 開催場所 | 久御山町町役場議会棟４階　特別会議室 |
| 参 加 者 | 出席者　13名（２名欠席）　／　オブザーバー　２名（京都女子大学）委託業者　２名（teco(株)）　大学院生４名事務局　５名（副町長、部長、子育て支援課長他） |
| 傍 聴　者 | １名 |
| １　開会２　議事（１）委嘱書交付（２）キックオフイベント結果報告（事務局から）　　　・資料１に基づき説明（事務局）　　　・質疑応答　なし（３）みまきっこまんなか応援まちづくり事業基本計画等策定業務委託業者について　　　・説明（teco(株)）　　◆みまきっこまんなか応援村を作るための方針について　　　①チーム作り　　　　　みまきユースラボを中心に、設計事務所や大学研究室、検討委員会、準備事業実施団体、　　　　協力してくれる大人たちと連携して、拠点を考える連携体制をつくる。　　　②弾力あるプロセス　　　　子どもの意見・地域の人たちの意見を取り入れるためには、気長にしっかりと声を受けとめていけるような仕組みが必要である。③自然交通災害からみた久御山町と御牧校区　公共施設→御牧校区の中には少ない　田畑・文化資源→御牧校区に多い　実際に街歩きをすると、石垣のところで子どもが鬼ごっこをしていたり、大人がビニールハウスの中で秘密基地みたいに井戸端会議をしていたり、居場所としてのポテンシャルがある場所が見えてきた。　また、ハザードマップでは、御牧校区で浸水されるとする場所は多いため、防災教育的な拠点としての機能ももてればよい。交通不便地でもあるので、施設へのアクセスについても検討必要。④新拠点の役割と立地の検討　御牧校区以外だとどのようなものがあって、御牧校区ではどういうものがあるか、を確認しながら検討。やりたいことにあわせると施設規模もどんどん大きくなるが、例えば２人でゲームができる場所・５人でご飯を食べられる場所・20人で一緒にワークショップできる場所など、ときに応じてサイズを変えられるような仕組みを建築に取り込む。⑤地域の特色とプレイヤーから組み立てるコンセプト　現時点でヒアリングした方々のお話からまとめたキーワード　・成長とコミュニティ→チャレンジできる場所　・アクセス→子どもだけで行ける　・健康と食　・余暇と過ごす環境→目的がなくても行けば誰かに出会える場所　・まちを知る　今後、住民ヒアリングを積み重ね、拠点のコンセプトがさらにクリアになると考える。　また、全てを新しい拠点で解決するのではなく、まちの他の施設を使いながら、ネットワークでつなぐことにより解決していくという方法もある。　・質疑応答　（○検討委員　●teco(株)◇オブザーバー）　　○実績で紹介いただいた施設がとても雰囲気がよく若者に受けるのではと思う。　　　可変的な場所について、その場に応じて部屋を区切れるのもいいのかな、と思った。　　●中高生がパブリックな場所に来てくれるには、ちょっとおしゃれで、そこにいる自分が　　　ちょっとステキに思える場所である必要を感じている。　　　建物の可変性については検討すべき点と考えている。キッチン・水回りのように動かせないものをどこに据えて、そこを中心に場が伸縮するみたいなことを建築で考えていきたい。　◇例えば、ここに来たら「ピザが焼ける」みたいなスペシャリティがあるといいのかなとい　　う気もした。そいうものをみなさんのアンケートから構築できればよいと感じる。　※その他、「放課後デイサービス」「グループホーム」とのコラボについても、検討委員から　意見が出ていた。　（４）みまきっこまんなか応援村準備協力団体の年間取組について・資料３に基づき説明（ＮＰＯ法人ひと・まち・ジャンクション）　・質疑応答　なし　（５）今後のスケジュールについて（事務局から）　　　令和７年度は、本日を含め、検討委員会を４回開催予定３　閉会 |